



秋、はじまる

前に担任をもっていた時には、この通信はいつも家に帰ってから書いていた。主人の方が勤め先が遠く、たいていは私の方が帰宅が早かったので、主人の帰りを待ちながら書いていたわけである。ところが、最近は早起きをするようになったせいもあって、朝、学校についてから書くことが7割くらいになった（今日も学校で書いているが、タイトル写真を10月用にするのを忘れた…泣）。ちなみに、学校には6時半過ぎくらいに着くが、すでに3名の先生方（化学2名+英語1名）がいらしている…。

君たちは、総じて朝が苦手であろう。まあ、若いうちは仕方ない面もあるが、どうも時間の使い方がうまくいかないと感じている人は、ぜひ、朝の時間帯が活用できないか工夫してみしてほしい。夜、眠いのをこらえながらダラダラとやるよりも、朝の方が集中して短時間で効果を挙げやすいし（英語や数学の予習も、当日の朝という切羽詰まった状態の方が、はかどったりするかも…）、大学入試が夜中に行われるわけではないことを考えても、午前中から絶好調となるペースを自然のリズムとして身につけることは、決して悪いことではないのである。何ごとも習慣だから「自分は朝はダメ」と決めつけずに、ぜひチャレンジしてほしい。これから冬になると、ますます朝起きるのが辛くなるだろうから、後期の新しいスタートでもあるし、今が生活改変のチャンスでもある。

*

さて、その後期がスタートする。「動の前期、静の後期」とよく言われるが、本当に何もないのかといえば、本当に何もない（笑）。ここは腰を落ち着けて勉強に取り組もう。

季節も勉強にうってつけになってくる。夏までは、暑いしムシムシするしで、どうもやる気が出なかったという人も、秋になって爽やかで過ごしやすい日々が続くようになると、以外と勉強がはかどるようになるものだ。部活が大変だったという人も、夏の合宿などを通してだんだん体力がついてきているし、先輩や周囲との人間関係にもなれて、夏休み前ほどの疲れを感じることはなくなるはずである。そして、大きな行事がなくなるから、勉強+部活+行事の三本立てだった人も、一つ減って二本立て、つまり、いよいよ「両立」を目指すべき時が来たのである。

というわけで、繰り返すが、ここは腰を落ち着けて、もう一度自分の勉強法などを振り返り、前期の経験を生かしたり反省したりして、再度勉強への取り組み姿勢を構築してみよう。大切なことは、「素直」に4月入学当初の気持ちを思い出すことである。日比谷に入った時に、「こんな勉強を頑張ろう」とか、「こんな大学を目指してみたい」とかいう目標や希望があったはずだ。それをもう一度素直に思い出して、再度自分に問いかけてみてほしい。「無理な目標だった」「根拠のない希望だった」などと諦める必要はない。まだ、高校生活は1/6が終わっただけなのだから。勉強はこれからが本番なのである。